



立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科  
公開講演会

# 自然の他者性と向き合う

日時：2015年6月6日（土） 会場：立教大学池袋キャンパス  
15:40～17:10 太刀川記念館3階多目的ホール

人間と自然との関係性のあり方は1992年のリオ・デ・ジャネイロでの地球サミット以降大きく変わってきているが、20世紀の終わり頃から河川管理を中心として大きく自然との関係が見直され、災害が多発するようになってから荒ぶる自然の側面が注目を浴びるようになり、自然との調和的な関係ではなく、自然の他者性に向かい合うあり方が大きく問題になってきた。自然の他者性と向き合う中で、これからどのような自然との関係性を構築していくべきかを考察する。なお、本講演会は立教・異文化コミュニケーション学会第12回大会の基調講演を兼ねるものである。

**講師** 鬼頭 秀一（きとう しゅういち・星槎大学共生科学部教授、東京大学名誉教授）

プロフィール： 略歴：1984年山口大学教養部専任講師、1993年青森公立大学経営経済学部教授、1997年東京農工大学農学部教授、2003年恵泉女学園大学教授、2005年東京大学大学院新領域創成科学研究科教授を経て、2014年より現職。専門は環境倫理学および環境技術社会論。1984年東京大学理学系研究科博士課程（科学史・科学基礎論専門課程）単位取得退学、薬学修士、理学修士。代表的著作に、『自然保護を問う—環境倫理とネットワーク』筑摩書房、1996年（単著）、『環境倫理学』東京大学出版会、2009年（共編著）、『自然再生のための生物多様性モニタリング』東京大学出版会、2007年、『環境の豊かさをもとめて—理念と運動』昭和堂、1999年（単編著）、「科学技術の不確実性とその倫理・社会問題」『科学・技術と社会倫理—その統合的思考を探る』東京大学出版会、2015年、「統合的な教育概念としての「環境教育」とその環境倫理的基礎づけ」『学術の動向』第18巻（2013年）12号、10-14頁。

主催： 異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻

共催： 立教・異文化コミュニケーション学会  
立教大学ESD研究所

対象： 異文化コミュニケーション研究科学生  
本学学生、教職員、校友、一般市民

問合せ先： 立教大学 独立研究科事務室 TEL：03-3985-3321

受講無料  
申込不要